

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 29 日現在

機関番号：32501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381039

研究課題名(和文) 東京女子高等師範学校保育実習科における昭和初期の保育者養成 - 現存資料からの検討

研究課題名(英文) Training courses for kindergarten teachers at Tokyo Women's Higher Normal School in the early Showa era : An examination of lecture notes

研究代表者

榎 英子 (MAKI, Hideko)

淑徳大学・総合福祉学部・教授

研究者番号：20413099

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、東京女子高等師範学校保育実習科における昭和初期の保育者養成を明らかにするために、昭和9年度に在籍した川上須賀子の残した「保育法」「児童心理」「教育」「修身」「遊戯」の講義ノートを現代語に書き下し検討した。既存の倉橋惣三の「保育法」講義録との比較から、川上ノートの講義内容の再現性の高さが明らかになった。「児童心理」講義についての詳細な検討を行った結果、保育者養成は、附属幼稚園に所属して行う実習と並行して行われたこと、講義は倉橋の充実期のものであり、一般的な児童心理学より自我の発達を重視していたことなどが明らかとなった。その成果を『倉橋惣三「児童心理」講義録を読み解く』として出版した。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the practice of training courses for kindergarten teachers at the Tokyo Women's Higher Normal School in the early Showa Era through examining the lectures note about 'hoikuhou', 'jidoushinri', 'kyouiku', 'shuusin' and 'yuugi' written by Kawakami Sugako. Comparing with another student's notes, Kawakami's Notes show good reproducibility of Professor Sozo Kurahashi's lectures. Examination of 'jidoushinri' clarified Kurahashi's lecture was made in parallel students' practice of attached Kindergarten, and was rich in content in his life and had distinctive emphasis on development of self. The result of this study was published in June 2017, as 'Reading the lecture notes of jidoushinri by Kuarahashi Sozo'.

研究分野：幼児教育学 造形教育学

キーワード：東京女子高等師範学校 保育者養成 倉橋惣三 児童心理 講義録 遊戯 保育法 昭和初期

1. 研究開始当初の背景

本研究は、昭和9年に東京女子高等師範学校保育実習科に在籍していた川上須賀子(研究代表者の義母)の遺品から複数の講義ノート(「川上ノート」)が発見されたことがその発端となっている。その中に倉橋惣三の講義録が含まれていたこと、川上が倉橋の推薦で現在の天皇陛下の保姆となった優秀な学生であったことなどから、当初より史料の学術的な価値の高さが推察された。

また、保育者養成史においても、昭和初期に関する史料が乏しいことから、これらを判読可能な形にしたうえで、当時の保育者養成の探究を行う必要があると考えた。史料の存在は、研究代表者がすでに「東京女子高等師範学校保育実習科における昭和初期の幼稚園保姆養成 - 川上須賀子が残した資料から - 」¹⁾として発表していたが、概要紹介にとどまっていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「川上ノート」から、昭和初期の東京女子高等師範学校保育実習科における保育者養成の姿を明らかにすることである。

特に、倉橋惣三の保育者養成に関する貴重な史料であることから、我が国の幼児教育の父とされる倉橋が、何をどのように教授したのかを解明することは中心的課題である。

また、その他の史料の中では、川上の手描き図版が添えられた「遊戯」については、量も多く質も高いと考えられることから、その内容を詳細に検討する。

3. 研究の方法

「川上ノート」の保存状態は比較的良好であったものの、手書きの速記録であることから、判読が困難な文字や旧字体が多く含まれていた。そのため、まず全資料のスキャニングとデータ化を行った。

また、本史料は講義録であり、講義そのものではないことから、「川上ノート」の講義録としての特性を明確にする必要があった。「川上ノート」には、倉橋の「保育法」講義録が含まれていたが、同期生の筆記録が、『倉橋惣三「保育法」講義録-保育の原点を探る』²⁾として発刊されていることが判明したため、その2つの講義録の比較から、「川上ノート」の特性と史料価値を検討することとした。具体的には、書き下された「保育法」のデータをスクリーンに投影し、不明な文字や内容について研究代表者の榎と分担者の榎沢が協議した。

「児童心理」についても同様の判読作業を行い、文字データを確定した。その成果を連携研究者である中澤氏、浜口氏とも共有し、それぞれの専門領域から内容についての検討を加えた。

また、その他の史料についても書き下して文字データにし、「遊戯」については、研究

分担者の浅倉が詳細に検討した。

4. 研究成果

(1)「川上ノート」とは

筆者である川上須賀子は、1917(大正6年)に生まれ、東京府立第五高等女学校を卒業し、1934(昭和9年)4月に東京女子高等師範学校保育実習科に入学している。卒業後には現在の天皇陛下の保姆となり、その後昭和15年まで宮内庁に勤務していた。

「川上ノート」は、「保育法」「児童心理」「教育」「修身」の講義ノートと「遊戯」「手工」の図版付きノートから成る。「修身」は下田次郎、「教育」「教育」は古川竹二が担当しており、古川教授は、血液型気質相関説を唱えたことで知られている。

保育実習科は、東京女子師範学校に附属する課程として1978(明治11年)に保姆練習科として設置されたものがはじまりであり、1901(明治34年)から、1948(昭和23年)3月まで入学者募集が行われていた。川上が在籍した当時は、修業年限が1年間であり、定員24名で、実習は24人が6クラスに4人ずつ配当され、秋にクラスを変え、2クラスで実習を行った。実習の方法は、朝、子どもを受け入れる時から保姆と一緒に保育を行い、講義があるときは本校へ行くという生活で、生活の中心は幼稚園であり、川上が残したアルバムにも、附属幼稚園での写真が数多く残されている。

(2)倉橋惣三「保育法」講義録の検討

「川上ノート」の検討過程で、「保育法」が、既刊の『倉橋惣三「保育法」講義録』と全く同じ講義の筆記録であることが明らかになった。1990年に発刊された本書は、川上の同級生であり卒業後附属幼稚園に奉職した大岡薫(旧姓)の筆記録を幼稚園保姆である菊池ふじのが書き写したノートをもとにしている。既刊書の筆記内容の評価が高いため、「川上ノート」の質を見定め、川上がどのような筆記者であったかを明確にするため、2つの講義録の比較を行った。

文章量は既刊の講義録の方が多く、その差は、元になった筆記録の細密さとノートの成り立ちの違いによって生じていると考えられるが、既刊の講義録は解説的であり、明らかに「川上ノート」だけに記されていた文章も数多くあった。たとえば、「幼稚園と託児所は同じもの。託児所のようなものこそ必要である」「ここにおいてはじめて教育と生活保護と合したのである」「生きた先生が生きた子供を教えるのである。幼稚園は生きている」「真実の自由感を尊重する幼稚園に稽古なし」などである。こうした文章は、重要な言葉を聞きもらすことなく書きとめた筆記力によるものではないかと考えられた。また、倉橋の講義を受けた学生の感想に書かれていた倉橋らしい比喻が詳しく書きとめられていた。このような印象的な表現、ユー

モアのある言葉、リズム感のある文章、倉橋の語り口と思いが読み手に伝わってくる筆記が「川上ノート」の特徴であり、網羅的ではないものの、再現性の高い講義録であることが明らかになった。

(3) 倉橋惣三「児童心理」講義録の検討

「川上ノート」が記された1934年～1935年の倉橋は、研究者として2つの側面から充実期にあった。一つは、1882年12月生まれの倉橋が一人の研究者個人として50代の充実期に入っていたという側面であり、もう一つは、日本の軍国主義的統制が社会各方面に強まる環境にはありながら、日中戦争勃発(1937)によって文教政策が「戦時下」体制に移行する直前の、かろうじて自由に学術的意見の発信が可能な時期だったということである。そしてこの時期、幼稚園教育の「真諦」(本質)と「内容」(カリキュラム論)、さらにその「歴史」研究というトライアングルな関係にある『幼稚園保育法真諦』『系統的保育案の実際』『日本幼稚園史』という重要な著書3冊の出版に関わっている。『真諦』は1933年夏の現職者向け日本幼稚園協会保育講習会における講演「幼稚園保育の真諦、並に保育案、保育過程の実際」の速記記録を元にしており、倉橋が現職教育と養成教育に奔走し、最も充実していた時の講義ということができらる。

倉橋惣三の「児童心理」の講義内容は以下の通りである。教科書がなかったことから、その内容を知りたいへん貴重な史料である。(章/キーワード)

第一章 児童研究 / 伝記的研究法・懸統計法・実験法
第二章 精神発達 / 精神発達の法則・神経機能に基づく活動・本能
第三章 遊戯の心理 / 遊戯の特色・過剰勢力説・勢力回復説・遊戯本能説・Atavism説・遊戯の心理
第四章 幼児生活の非現実性 / 遊びの非現実性・遊びの中に行われる事実・ごっこ・お話に結びついてくる事実・day dream・架空会話・架空伴侶・お化け・昼夢の想像・お伽話
第五章 自我の心理 自我生活 / 自我の生活の発達・意識我・観念我・本能我・感情我・自己肯定と自己主張・自己評価・自己保存・自我の特質・自己評価の内容・身体我・物我・衣服我・社会我・自己我・慎独・独善・賞罰・体罰・ご褒美・自我の訓練・自己防衛性・社会性・群居性・相互性・集合性・児童心理学の結論

倉橋は、帝国大学で心理学を専攻し、児童心理学の領域で卒業論文「児童の言語及び絵画」を書き、卒業後は大学院に進んだ。ジョンズ・ホプキンス大学のホールのもとに5年間留学した元良勇次郎の指導を受け、1906(明治39)年に帝国大学哲学科心理学専修第2期生として卒業した。卒業後は心理学の社会への普及や創設期の学問としての心理学の学術的な基礎を支える活動を積極的に行い、1927(昭和2)年に日本心理学会第1回大会・日本心理学会の設立に参加した。その後倉橋は、1910(明治43)年に東京女子高等師範学校の講師となって「児童心理学」を教授し、1917(大正6)年に教授となる。その後3回に渡り、学生時代から通っていた東京女高師附属幼稚園の主事(園長)となり、次第に心理学者というより、幼児教育研究者と見なされるようになっていく。

倉橋の「児童心理」講義録を、昭和9年前後の他の心理学者の執筆した児童心理学関連の教科書との比較から検討し、その特徴を明らかにしていく。

授業時間の制約から講義の範囲は限られるが、当時の教科書で触れられている胎児期、新生児、乳児期、児童期、青年期はとりあげられず、また発達障害児にも触れられていない。あくまでも幼稚園教員になる人たちに、健全な幼児期に焦点を当てて講義をしたものであるといえる。また、領域的に、身体・運動発達、言語発達、知覚(注意)・記憶・思考、文字・数、道徳、絵画表現は講義されていない。このような内容的な取捨選択やアンバランスさは、同年の「保育法」の体系的な記述と比べると、自由さが高い。この時期はすでに厳密な「心理学」よりも幼児教育学に関心を移した倉橋が自由な立場から子どもたちの「心理」を語り、日々幼児に接している保姆実習科の学生が、その生の姿から子どもを理解するための、現場的な「児童心理」を講義していたと考えられる。

その内容は、「第一章 児童研究」、「第二章 精神発達」、「第三章 遊戯の心理」、「第四章 幼児生活の非現実性」、「第五章 自我の心理 自我生活」から成るが、ノートのページ数で比較すると、第一章が4ページ、第二章が2.5ページ、第三章が6.5ページ、第四章が5ページ、第五章が19ページであり、第五章に全体の半分近くが割かれている。当時の教科書で自我を章として立てたものは見られず、自我の記述もほぼないことから、倉橋は子どもの自我のありようやその発達をいかに重視していたことがわかる。自我の発達については青年期の「意識我(自己反省)」、少年期の「観念我(自他を区別)」、幼児期の「本能我」「感情我」(自己肯定)と分類している。自我の訓練は、自我に弾力を与えることと自己評価を正しくすることを重視するが、過敏な自己評価や自己防御は自我を不安定にするため、子どもの程度に応じて自我を満足させることが良いとする。子ども

は自己評価を行うことが難しいので、自己評価の代わりとなる親や先生を持つことは大切であり、それだけに教師の評価が重要であるとする。また、「社会性」(教師が子どもに与える評価が子どもの中に入ったもの)は主我性(自分を主とする自我のあり方)と並ぶ人間の特性で、主我よりも「文化の高いものであるかもしれない」という。その意味で、社会性を養うことは、「幼児期において実に大切に」、「幼児教育は社会性の教育である」とする。そしてこの章では、保育者のあり方として、「自己防御」的、「孤独性」、「社交」的ではない事を求めるなど、保育者の資質についても言及している。

倉橋は、終わりに「今まで考えてきたことは、児童心理の一般であって、児童の実際はどこまでも一人一人である。」とする。個人差研究としての当時隆盛であった検査法を用いる「差異心理学」についても紹介するが、検査によって分かるのは、「その子が<普通>というものから違うところを知り得るのであるが、それだけがその子じゃない。その子はどこまでもその子である。これをもって結論とする」。この最期の結論が、幼稚園で一人一人の子と接してきた倉橋の実感であったと考えられる。

また、現在の保育者養成の心理系科目と比較する。現行の保育士養成課程では、「保育の心理学 (講義・2単位)」と「保育の心理学 (演習・1単位)」が設定されており、「保育の心理学」は、感情、自我、身体・運動機能、知覚、言葉、社会性、生涯発達など、発達の様々な側面の概要を学生に理解させることが目指されている。「保育の心理学」は、発達を主に保育実践・保育者の援助と結びつけて学生に理解させようとするものである。この二つの科目は、元々は「発達心理学」と「教育心理学」として講じられていたものを保育の実践に近づけることを目的に編み直されたものである。これらが学生に発達全般についての知識を得させることを目指しているのに対して、「川上ノート」の「児童心理」では、発達については第二章で扱われているだけであり(約 2.5 ページ) 倉橋は幼児を発達的に理解する以上に、幼児はどのように生きているのか(幼児の世界はどのような世界なのか)を理解することの方が大事であると考えていたと推察される。

また、「遊び」については、「保育の心理学」では全く取り上げられておらず、「保育の心理学」において、「2.生活や遊びを通した学びの過程」の中の一項目として取り上げられているにすぎない。倉橋はこのほか遊びを重視しており、グロースの理論を、「遊びは本能の表れであり、遊びの中で本能在実際の生活に役立つように準備・訓練される。それ故、人間は遊ぶ必要があるのであり、子ども時代は遊ぶ時代として存在する」と紹介する一方、アタヴィズム(個体発生は種族発生を繰り返す)を取り上げ、発達過程にお

いて発現する子どもの姿は必要か不要かという実利的観点で評価するべきではなく、そのものを大事にするべきであるとしている。これは「子ども時代を子ども時代として尊重する」という子ども観に通じている。現在の保育者養成教育においては、遊びを学習のための手段として重視しているが、倉橋は、そのようにばかり遊びを扱うのではなく、子どもが遊ぶこと自体を尊いものとして見ることをも学生に学んでほしかつたのだろう。

このように、「児童心理」の授業からは、倉橋が、保育者は子どもについて科学的な知識を持ち、科学的に考えられる必要がある一方、科学的認識にとらわれないで子どもを見なければならぬと考えていたこと、保育者が自己の主観性を働かせて、子どもの内面世界を理解することを重視していたことがわかる。これは、幼児期には本来もっている成長力こそ培うべきであり、そのためには遊びそのもの(子どもが生き生きと遊ぶこと)を大事にするべきであるという考えに基づくものであり、現在の成果主義に向かいつつあると思われる教育界の動きに対するアンチテーゼとも受け止められる。児童心理学者としての倉橋は同時に実践者(保育者)としての倉橋でもあった。そこに、私たちは学問と実践との統一を見いだすことができる。

(4)「遊戯」の検討

「川上ノート」の「遊戯」には振付家名は書かれていないが、各種資料を照合した結果、その大部分は、昭和8年に東京女子師範学校助教授に就任した戸倉ハルの作品であることがわかった。戸倉は、童謡遊戯の本質は、子どもの模倣性を土台とし、自然的発表動作を基礎として作り出されたものであり、童謡遊戯によって、子どもの創造性や芸術的衝動を適当に導きながら、豊かな感情等を伸ばしていくことが童謡遊戯の教育効果であると述べており、本史料はその具体的な実践集となっている。「川上ノート」の「遊戯」の史料価値としては以下の三つがあげられる。

一つは、現存が確認できない当時の唱歌遊戯の集大成『子供の舞踊』に収録されていたと思われる唱歌遊戯50のうち、45が『幼児の教育』紙上の広告から判明しているが、そのうちの少なくとも24が「川上ノート」に詳細に記録されていることである。当時の唱歌遊戯の実際についてのまとまった史料としてたいへん貴重であり、これによって唱歌遊戯の最盛期であった当時の状況が明らかになるとと思われる。

二つ目は、他の唱歌遊戯の解説書、たとえば『幼児の教育』紙上の土川の振付けの解説、戸倉の「系統的保育案の実際」に掲載された解説や戦後の彼女の著作物の中の解説に比べて、格段に絵が上手でわかりやすいということである。1コマ1コマで変化する手や足の動きを微細に描いた人型の絵が、現代のカメラによる連写の静止画のように整然と並

んでいる。

三つ目は、土川から戸倉、戦後の戸倉の振付けの変化がわかることである。土川から戸倉への振付けの変化は動きがシンプルになり、二人組や団体で動くことが増えていることがわかる。さらに戦後の振付けは細かい指示を減らし、子どもの自由度を高めていることが特徴となっている。

また、本史料を再現した唱歌遊戯の実践を行った。それによって二つのことが明らかになった。一つは、学生たちが親子連れの前で唱歌遊戯を発表した際に、一緒にやろうという設定ではなかったにもかかわらず、幼児たちが段々遊戯に加わって一緒に動いたという経験から、当時の遊戯には、幼児を虜にする魅力があるということである。二つ目は、本史料に掲載されている歌詞やリズムに合う動きをしながら歌を歌うと、歌うだけよりも印象が残りやすい、記憶しやすいということである。これについては実験から確認された(学会発表)。

(5) 保育実習科の昭和初期の保育者養成

以上の検討を進めた結果、保育実習科での保育者養成の質がたいへん高かったことが推察された。特に、養成期間の1年間にわたって幼稚園に配属されていたことにより、実際の子どもの姿を脳裏に浮かべながら講義を聞き、実技を学び、その後に現場で振り返るということができ、理論と実践の往復の中で実践力が養われたと考えられる。また、本研究で詳細に検討した「保育法」「児童心理」「遊戯」の担当者である倉橋と戸倉は、共に現場をよく知る教員であり、幼児像が共有されていたことによる影響もあっただろう。

講義は時間的制約の中でなされるものであるが故に、教員が養成教育において最も重視した事柄が集約されている可能性がある。現在とは異なる方法で行われたとはいえ、「川上ノート」の発見によって垣間見ることができた80年以上前の保育者養成の姿は、現代の養成教育に対しても示唆に富むものであった。

<引用文献>

1) 榎 英子 東京女子高等師範学校保育実習科における昭和初期の幼稚園保母養成 - 川上須賀子が残した資料から - 淑徳大学研究紀要(総合福祉学部・コミュニティ政策学部) 46, 2012, pp. 135-149

2) 菊池ふじの(監修)・土屋とく(編) 倉橋惣三「保育法」講義録、フレーベル館、1990

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

榎 英子・榎沢良彦 倉橋惣三の東京女子高等師範学校保育実習科「保育法」講義の検

討-『倉橋惣三「保育法」講義録』と「川上ノート」の比較から、淑徳大学研究紀要(総合福祉学部・コミュニティ政策学部) 50、2016、pp.99-117、

[学会発表](計 4 件)

榎 英子・榎沢良彦・中澤 潤・浜口順子 倉橋惣三「児童心理」講義録の検討-「川上ノート」から読み解く倉橋惣三の保育者養成-、日本保育学会第70回大会、2017

榎 英子・榎沢良彦・浅倉恵子 東京女子高等師範学校保育実習科の昭和初期の保育者養成 -「川上ノート」の検討から-、日本乳幼児教育学会第26回大会、2016

浅倉恵子・榎 英子・榎沢良彦 東京女子高等師範学校保育実習科の昭和初期の保育者養成 -川上ノートに記された遊戯-、日本乳幼児教育学会第26回大会、2016

Keiko Asakura The Effects of the Movement of the Body to Music Performance, Journal of Modern Education Review, ISSN2155 -7993, USA

Volume6, No5, pp. 343-350 (International Symposium on Performance, 2015)

[図書](計 1 件)

川上須賀子・榎英子・浜口順子・中澤潤・榎沢良彦、萌文書林 倉橋惣三「児童心理」講義録を読み解く、2017、142

[その他]

「遊戯」(書下し文と図版でノートを再現した冊子を作製した)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

榎 英子 (MAKI Hideko)
淑徳大学 総合福祉学部 教授
研究者番号: 2041399

(2) 研究分担者

榎沢 良彦 (ENOSAWA Yoshihiko)
東京家政大学 家政学部 教授
研究者番号: 10262487

浅倉 恵子 (ASAKURA Keiko)
常葉大学 保育学部 教授
研究者番号: 20369375

(3) 連携研究者

中澤 潤 (NAKAZAWA Jun)
植草学園短期大学 教授 千葉大学 名誉教授 研究者番号: 40127676

浜口 順子 (HAMAGUTI Junko)
お茶の水女子大学 基幹研究院人間科学系・教授 研究者番号: 80289818